



秋もだいたい深まってきて、すこし肌寒くなってきましたね。食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋…秋は何をするにも楽しくて過ごしやすい季節ですね♪図書館はやっぱり読書の秋を推したいところ♪ということで、今月はそんな読書をする人へのこんな1冊を選んでみました。『本を読む人のための書体入門』そう、書体の本です。ゴシック体、明朝体というワード聞いたことありませんか？それが、書体です。いま世の中には書体(フォント)は3000以上もあるって知ってました？デザイン性のあるものもたくさんありますね。本を読む人がだれしも目に入れる文字。そして、パソコンを触る人はいまや「書体(フォント)をえらぶ」という行為は日常的な行為となっています。みなさん普段当たり前のように、本を、文字を、見っていますが、その文字すこし注目してみてください。本書は、「吾輩は猫である」の冒頭が4種類の書体で紹介されているところから始まっています。まったくおなじ内容の冒頭文なのに、書体が違うだけで、文章が違って見えませんか？書体が変われば、同じ音でも違う風を感じる理由を教えてください。本書は、「本の帯の猫の表情と書体の比較もかわいいです♪」そして、そこから、書体の奥深い世界へわたしたちを導いてくれます。

「文字の食卓(文字を食べる、文字を味わう)」というサイト(<http://www.mojisyoku.jp>)を立ち上げたこの本の著者の正木さんは「絶対音感」ならぬ「絶対文字感」を持っているのだそう。そんな著者の正木さんは「文字は言葉では説明できない何かを伝えるためにある」んだと本書の中でおっしゃっています。書体、文字の魅力を知り、楽しむことが文字の食卓を豊かにするのだと!

本書の中にもいろんな書体がでてきます。(ページの中で登場した書体なんの書体かを→で説明書きがされているページの構成もおもしろいです♪)例えば、ホラー書体でおなじみの書体、「淡古印」というのですが、みなさん見たことあるでしょうか？あの『世にも奇妙な物語』のあのロゴ。あの文字の書体がホラー書体でおなじみの「淡古印」です。このロゴは番組オリジナルのロゴだそうですが、いまやあの書体で書かれている文字や文章を見ると、なんでも自然と恐ろしい、怖いというイメージ、ホラーを連想してしまいますよね。でも実は、この書体、元ははんこ屋さんに向けてできた書体で、一切ホラーとは関係ないんです。この書体が初めて印刷で使われたのは、『ドラゴンボール』でした。ここでも、まだホラー要素としてではなく、ただ単に、アンティークぽさを出すために使っていたのだそう。それが、だんだん、マンガの中で、狂言回しとして、読者の期待と緊張を煽る言葉をこの淡古印で載せたところ、徐々に、緊張感を漂う恐ろしい文字となっていきました。そして、『世にも奇妙な物語』のロゴとして使われたことで、決定的なものとして、イメージ付けられたそう。こんな風に、文字というものは「記憶をよむ装置」でその書体が使われた過去の本や言葉のイメージが文字に残り、そこから時間とともに手垢にまみれ、書体としての味をもつのだそうです。

正木さんは先も紹介しましたが、文字を味わう、文字を楽しむ文字食です。そんな正木さんは、普段から文字、書体の持つ、線の動きやスピード、筆圧を、感じ、目でなぞっているのだそう。そして素晴らしいなあと、すてきなあと関心してしまったのですが、正木さんはパソコンを入力するとき、ローマ字入力ではなく、「かな入力」で文字を打つのだそう。以前は、かな入力の方が主流だったそうですが、いまは、みなさんの多くは、わたしもそうですが、ローマ字入力が主流だと思います。そして、さらに最近ではiPhoneやタブレットの普及により、タッチパネルやフリック入力なんていう入力方法も増えている時代。そのことについて正木さんは、一つ一つの文字に備わっている時間の概念を無視している。文字の持つ身体性を感じ取れなくなってしまうのだと指摘しており、わたしは読んでいてぐさっとくるものがありました。正木さんの文字に対する愛を感じ取れる一面でもありました。

文字、書体というのは本の内容を伝える重要な要素の一つであり、そして作品世界へ入っていくための重要な役割なんだなあと本書をよみながら改めて、感じました。その出版社独自の伝統だったり統一された書体というものももちろんありますが、作品の内容に応じた書体がそれぞれの本には使っているのかなあと。読書をする際には、ページをめくったときの文字たち、書体にも注目しながら、文字を味わい食しながら、物語世界へ入って試みるのもいいかもしれません。あれ、これって読書の秋だけではなく、食欲の秋でもあるのでは？なんて♪

【おまけ 気になった方はこちらどうぞ♪】

雑誌『MdN 2018年11月号』

ワインのテイスティングのように明朝体を味わう。明朝体ソムリエになりたい

ワインを品種や産地を手がかりに、想像し、舌で楽しむワインのテイスティングのように、明朝体を書体ごとに味わい分ける「明朝体ソムリエ」24の明朝体の特徴と歴史を味わうことができる特集です。よく目にする明朝体って一つじゃないんです！明朝体のなかにもいろんな明朝体があるんです！正木香子さんも、明朝体の識者として、登場していますよ！日本の明朝体の元となった「築地体前期五号」、読み心地抜群の「イワタ明朝体オールド」(正木さんはこのイワタ明朝体オールドのことをなつかしい缶ドロップスの飴だと例えています。)辞書の文字としてよく用いられている「モトヤ明朝」、『君の名は。』のタイトルロゴとして使われ、近年人気の「A1明朝」ラノベを原作にしたTVアニメ『とある魔術の禁書目録』のロゴで有名になった現代的な明朝体「小塚明朝」、ふにゃっとして丸ゴシックのようなモダンでかわいい「丸明オールド」、暴れた造形、カタカナの美しさが特徴的な「筑紫Q明朝L」など…書体の名前はむずかしいものも多いですが、目にした書体もあるかも！付属冊子の明朝体テイスティングリストを開きながら味わってみましょう♪